日刊 動労千葉

1988.10.27
No2914

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

国鉄「分割・民営化」反対！三里塚二期工事阻止！

貨物・清算事業団への格差許すな

実力闘争を軸に「4・1体制」を粉砕しよう

東日本旅客会社は、十月十四日の「鉄道記念日」に東日本社員に対して「三万円相当の旅行券と二万円相当の宿泊券」を支給した。こうした形をとおした各旅客会社・貨物・清算事業団の労働者間の格差の拡大を断じて許してはならない。

そもそも分割・民営化の時点で、貨物・清算事業団の労働者から「職務乗車証」が一方的に奪われた。国鉄職員採用時に明示されていた「職務乗車証」を、労働者に何のことわりもなしに奪ったのだ。分割・民営化はスタートからこうした格差をもってはじまった。そして、ベースアップ・期末手当てなど次々と格差は拡大している。「会社が違うから」とこうした格差の拡大を許すなら、労働者の意識に分裂と分断を生むことになる。分割・民営化とは、このように各会社間、そして同じ会社であっても労働者間に差別と格差の拡大をとおして分断支配し、労働者間の団結を破壊することなのだ。「分割・民営化反対、四・一体制打倒」は、こうした格差や差別・分断を許さず、国鉄労働者の団結を守りぬく闘いでもあるのだ。

とりわけ最大の分断である清算事業団労働者の原職奪還の闘いを全力をあげてなんとしてもかちとらなければならない。政府・自民党・事業団当局は事業団労働者を「三年間」どころか今すぐにも「クビ」にすることを狙っているのだ。ストライキをはじめとして実力闘争を軸に様々なとりくみをもって原職奪還をかちとろう。

格差拡大をあおる
鉄道労連＝松崎

動労千葉は第十五回定期大会で、貨物支部代議員の格差を認めるな、許すな」という発言に応え、こうした格差に対しては当面、それぞれの条件の最も条件の良いところに他を引き上げるという取り組みを強めるとともに、格差が分割・民営化ゆえに起きるものという認識のもとに、「分割・民営化反対、四・一体制打倒」を闘いぬくことを確認した。

一方、革マル松崎は「動労千葉や国労には差をつけろ」と会社当局に要求し、自ら格差をつくりだす元凶となっている。これは鉄道労連の中で革マル支配に対する不満がうっ積し、鉄道労連以外とは差を付けることで、その不満を何とかそらそうとするものであり、断じて許せるものではない。同時に、こうした松崎の言動は、鉄道労連内に対立と亀裂をつくりだすものであり、鉄道労連打倒の好機でもあるのだ。

国労200名の不当配転に
勝利命令
神奈川地労委
国鉄時代の国労外し
「JRは責任」認定
神奈川地労委 組合員200人救済命令
配転を「国労つぶし」
組合員の職場復帰命令
神奈川地労委
「国労を理由の配転不当」
元運転士の主張認める
各地の地労委判断に影響も

ストライキ体制を確立し、奪われた権利、労働条件を奪還しよう！

あらゆる格差・差別・選別を許すな。奪われた労働条件を奪還しよう。分割・民営化反対、四・一体制打倒、鉄道労連解体を闘いぬこう！京葉線暫定開業に関わる合理化攻撃、「八九・三ダイ改」合理化攻撃との闘いを突破口として、動労千葉のすべての職場でストライキ体制を確立していこう！

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！